

令和8年1月19日 (月)

読売新聞 朝刊・地域面奈良

篠笛心の機微映し出す

佐藤さん講演 7曲演奏

薬師寺月例

まほろば塾

日本人の美しい心や豊かな文化を伝える「月例奈良

まほろば塾」(読売新聞社後援)が18日、奈良市の薬師寺で開かれた。「芸能」をテーマに学びを深める「シリーズ芸能」の初回で、



篠笛を演奏する佐藤さん(奈良市で)

篠^{しの}笛^{ふえ}奏者の佐藤和哉さん(44)が「笛の音に込める情景と想い」と題して講演し、約240人が聴き入った。

佐藤さんは、日本での横笛の役割を紹介し、音楽を奏でる役割のほか、祈りをささげたり奏者の心を映したりすることもあると説明した。「笛は単純な作りだからこそ、清濁分かちがたい音を出すことができ、心の機微を映せるのではないか」と話した。

講演に加え、自身の作曲した「瑠璃色ノ光」や、人気デュオ「ゆず」の「雨のち晴レルヤ」のモチーフとなった代表曲「さくら色のワルツ」など計7曲を演奏した。次回の月例塾は3月15日、雅楽団体「南都楽所」の堀川俊・楽頭が登壇する。